

# 中学校

## 新学習指導要領 実践ファイル

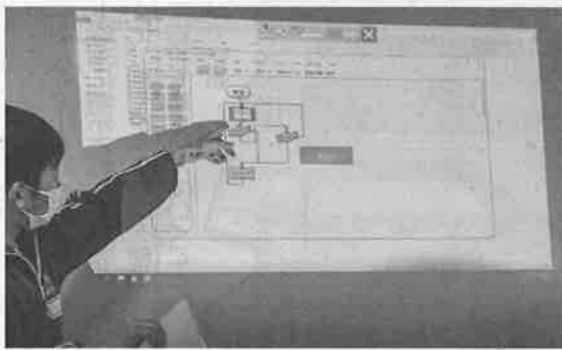
(18)

松葉薫・茨城県古河市立古河第二中学校教諭⑦

新学習指導要領で求められる資質・能力のつながりを意識した指導計画を考えていく中で、得られた課題と成果、および今後の課題について述べる。

生徒の課題の一つ目は、さまざまな技術の発展が進んだ便利な社会で過ごす中で、生徒が日常のちょっとした場面でも不便を感じたり、「もっとこうなったらいいのに」というふうに考えたりする経験が少なく、それを考えても表現するための力が

### 技術・家庭 〔技術分野〕



身近な機器を「適切に使う」ための特徴や仕組みを知らず、機器の機能を最大限に生かして使おうとする考えに行き着かない点である。この課題は一つ目の課題にも影響している。そもそも、生徒は特徴や仕組みを理解していない場合が多いため、よりよく活用しようとする思考に至っていないと予想される。

## 身近な機器を知り、改善考える意識育つ

そこで、家電などの身近な機器の問題点を見つけてながら、仕組みや特徴を知り、それを基に課題設定、解決策の構想・試作、さらに評価、課題の再設定を行うプログラムを制作するという題材を取り上げた(詳細は前回参照)。

その実践から得た成果として、生徒らの意識の変化が見られた。例えば、「身近な機器をよ

りよくしよう」と考える」という質問に対して、肯定的に答える生徒は、授業前と授業後を比べると、約50%増加した。これは、問題発見から課題解決に向かう生徒自身の「もっとこうなったらいいのに」「あったらいいなを」「こうしたらできるかも」「やってみよう」につながる。AIや自動化システムが加速していく、これからの社会を担っていく子どもたちにとって、確かな知識や技能を持ち、自ら考え、判断し、それを表現していく力、そして、身近なものから積極的に学んでいこうとする人間性を育成していくことは、とても大切なことであると改めて感じた。

今後、技術分野の果たすべき役割について追求していきたい。

## 企業と連携して まちづくり教育

宮崎県都農町立都農中学校(黒木倫徳校長、生徒2228人)は本年度から、まちづくりに関わる事業を展開する民間企業のイッソマ(同町)と連携し、総合的な学習の時間や職場体験などを展開している。地域の課題と向き合い、自分で考え、周囲の人々と共に解決に向けて行動できる人材の育成が目標だ。

### 宮崎・都農町立都農中学校

都農町は同県の県央地域にあり、人口は1万人弱。少子高齢化で年々人口が減少しており、若年層の流出が課題だ。昨年度には県立都農高校が閉校になった。

持続可能な地域であり続ける手だてが必要と考えた同町は、一般財団法人つの

総合 地元でのCO2削減策を探究

同社が作成したプログラムは、「総合的な学習」で取り組む「つの未来学」と、町内企業で職場体験をする「つのワーク」の二つ。

「この未来学」では、各学年で地域の課題を踏まえたテーマを設定。生徒が地域の人々に取材を行い、解決策を考え、企画書をまとめる。

グループごとにアイデアを出し合っている生徒たち

## 地域の未来への当事者意識を



例えば、2年生の主題は「都農町で二酸化炭素を減らす」。二酸化炭素の排出量を減らす「排出された二酸化炭素を吸収する」という視点から、国や自治体などの団体と、住民一人一人の個人とで何ができるか、具体策を考える。

5月に行われた授業では、同社の社員から二酸化炭素が関係している環境問題などについて話を聞いた後、サーキュラー・エコノミー(循環型経済)の実現▽日常生活でのプラスチックの使用量の削減▽町内の

農町のまちづくりと連動させることで、生徒一人一人の活用や、「ペットボトルの削減を呼び掛けるCMの作成」などの意見が上がった。100の提案について検討を進め、五つの解決策に絞った。さらにグループ内のチームをつくり、実行する

議論では、一人一人が付箋に考えを書き、模造紙に貼り出す。講師となった同社の社員は、各グループなどの団体と、住民一人一人の個人とで何ができるか、具体策を考える。

初めは慣れない作業に戸惑っていた生徒たちも、徐々に活発に発言する姿が見られた。

例えば、プラスチック使用量の削減を考えていた生徒たちからは、「ペットボトルでイルミネーションをつくる」といった廃棄物の

職場体験の「このワーク」は2日間の日程で、1日目は仕事内容の体験、2日目は各企業の課題を解決するための企画書作りを行った。最初は3年生で実施。2学年とも、「この未来学」

一連の活動を通して、同社のキャリア教育担当である黒田真衣教諭は「学校の外にいる多くの大人と関わることが、地元の課題を改めて認識するだけでなく、生徒の価値観や考えを広げられる」と話す。今後各

はさまざま。生徒は一人一台のタブレット端末を活用しながら、企画書を作成していたという。本年度中に2年生でも実施する予定だ。

都農中学校 09833  
25・0046

した都農町キャリア教育支援センターを中心に子どもたちを育成している。

多くの大人と関わる中学校側と直接やりとりをするのは、同センターから委託を受けた同社。中川敬文代表は同校での活動について、生徒一人一人が「自身の将来を考えるキャリア教育」である一方、地域の将来を自分ごととして考える「まちづくり教育」としての面も強いと指摘する。同社が関わっている都農町のまちづくりと連動させることで、生徒一人一人の活用や、「ペットボトルの削減を呼び掛けるCMの作成」などの意見が上がった。100の提案について検討を進め、五つの解決策に絞った。さらにグループ内のチームをつくり、実行する

### 一度は食べたい!この給食



岐阜県川辺町では地元の野菜や果物を給食献立に使い、四季折々のメニューを提供している。7月に提供されたのは「鮎の塩焼き」。尾頭付きの魚は、食べるのに時間がかかるが、箸の使い方を学ぶ貴重な機会となる。子どもたちは、骨のある魚の食べ方について担任から指導を受けながら、骨をきれいに取り除き、「初夏の味覚」を残さず堪能した。

### 岐阜・川辺町 季節を感じる「鮎の塩焼き」